

遠藤 守 レポート

発行：遠藤守後援会

医療・教育など、決算特委で多彩な成果

10月、11月の約2ヶ月間にわたり、平成17年度決算を審議する都議会特別委員会が開かれました。

遠藤守は、同委員会の委員に選任され、①終末期医療の充実②都立高校でのIT教育の推進③子ども向け芸術文化の支援——などをテーマに質問し、いずれも都側から前向きな答弁を得ました。

以下、質問と答弁要旨を紹介いたします。

○終末期医療、都も積極関与を○

【質問要旨】

厚生労働省は先ごろ、終末期における診療の開始、変更、中止等を議論するための「ガイドライン(たたき台)」を公表し、来春をめどに、何らかの結論を出す予定。また、国が国民や医師・看護師らを対象にした調査でも、終末期医療に携わる医師らへの研修の充実が求められている。

そこで都として、①国が行っている終末期医療の議論に積極的に参画せよ(病院での死亡者数は、東京が全国一である!!!)②終末期医療従事者の研修体制を強化すべきである。

【答弁要旨】

①に対しては「都として、医師会をはじめ関係の意見も聞き、必要な意見を国に伝えていく」。

②に対しては「癌研究会有明病院と武蔵野赤十字病院において、これまでの座学中心の研修から、より専門的、実践的な研修を、12月以降順次実施する」。

○IT教材を全都に公開せよ○

【質問要旨】

都教育委員会が「ITを活用した教育推進校」に指定している都立砂川高校(定時制と通信制課程を併設)では、生徒の学習支援のため、教師らが学習用コンテンツ(ウェブサイト上の学習教材)を開発、成果を上げている。同コンテンツは砂川高校のみならず都民共通の教育資源であり、まずは都内全ての高校生が活用できるようにすべきである。

【答弁要旨】

全都の高校生が活用できるよう、環境構築に努める。

○子供に芸術家との出会いを○

【質問要旨】

児童・生徒がプロの芸術家などの指導を受け、その成果発表会や鑑賞を都立文化施設で行う都の事業は極めて有意義。現在、クラシック音楽、演劇、能に限定されているジャンルを拡大するとともに、より多くの地域で実施せよ。

【答弁要旨】

多様な関心を持つ子どもたちが、新たなジャンルの芸術家と出会えるよう、質問の趣旨を踏まえ、検討していく。